

## 2023年度事業報告

2023年は、新型コロナウイルス感染症の位置付けが見直され、マスク着用や行動制限などが各個人の判断に委ねられたことから、国内の至るところに活気が戻ってきました。3月に開催されたWBCでは国民の心を一つにするような日本代表チームの活躍がありましたが、国内では原材料費や物流費の高騰を受け、食品やサービスなど幅広い分野での値上げが続き、我々の家計を直撃しています。また、国外に目を向けると、ロシアによるウクライナ侵攻は止まず、イスラエル・パレスチナ情勢についてもまったく先を見通せず、本当の平和ははるか彼方であることを実感させられた一年でした。

本会では、2023年度の事業執行に際し、前年度予算に対し収支ともに5,700万円(+3.8%)増額の15億5,700万円の予算を組み、4月に各種事業をスタートいたしました。

2023年4月1日(土)・2日(日)には、東京ビッグサイトにおいてJKCサクラ・アニュアル・ショーの名称のもと、本部展を開催いたしました。前日の3月31日(金)には単犬種合同特別本部展をロイヤルカナン・カップの名称のもと開催いたしました。また、同日同会場にてトリミング競技大会を開催いたしました。

この他、本会の主たる事業である展覧会・競技会事業においては、全国各地で330回余の各種展覧会、訓練競技会・アジリティー競技会・フライボール競技会・トリミング競技会・ハンドリング競技会を全国各地で開催した他、前年度に競技会規程を制定したドッグダンスの第1回競技大会を7月に開催いたしました。

展覧会・競技会事業と並ぶ本会事業の根幹である犬籍登録事業におきましては、2023年度犬籍登録頭数は前年度に対し若干の増加となり、133犬種・309,641頭の登録がありました。

なお、動物の愛護及び管理に関する法律に基づき定められた繁殖のルールに則り、牝犬の生涯出産回数・交配年齢に関する登録規程を定め、すべての申請について審査を行っております。

クラブ会員数については、2023年度末の有効クラブ会員数は、前年度末会員数に比べ若干減少し80,199名となりましたが、一年を通して8万名台を維持することができました。

この他、組織指導においては、円滑な組織運営がなされるよう、各組織に対し綿密な指導を重ねました。学術部門においては、審査員の技術向上や育成に努めるとともに、フレンチ・ブルドッグ、パグ及びショートヘアード・ハンガリアン・ビズラの犬種標準改正作業を行いました。国際的連携や広報関連などの諸部門においても、それぞれ着実かつ堅実な成果を上げることができました。

本会公認資格であるJKC愛犬飼育管理士資格につきましては、ウェブサイトからの申込みも可能とし、前年度に引き続き資格取得のための講習会・試験に数多くのお申し込みをいただき、全国6会場で12回実施した講習会・試験に1,783名の方が参加されました。その結果、トリマー養成機関を含め、1,841名の資格登録者がありました。

また、本会が犬を通しての社会貢献として1990年度より取り組んでいる災害救助犬育成については、有事に備え、現在136頭の出動可能な認定犬を確保しており、能登半島地震に際しては、2チーム・10頭の災害救助犬が現地で被災者捜索にあたりました。

前述のような各種事業を推進した結果、2023年度の正味財産増減計算書において、経常収益と経常外収益の合計額は、前年度16億6,602万円に対して1.3%(2,174万円)減の16億4,428万円となりました。また、経常費用と経常外費用の合計額は、前年度15億4,779万円に対して2.2%(3,443万円)増の15億8,223万円となりました。これにより、当期一般正味財産増減額(当期剰余金)は4,531万円(前年対比4,232万円減)となっております。

以上のような決算報告であります。本会を取り巻く諸環境が厳しいことには変わりはありません。今後ともこうした財政状態や本会をめぐる情勢等を踏まえた適切な運営を引き続き継続していくことが重要と考えております。

次に、2023年度に実施した事業の概要を事業ごとに報告いたします。

## 1. 組織に関する事項

2023年度は、組織運営の活性化及び円滑化を図るため、各組織に対し、諸会議の開催及びその議事録の提出、また、展覧会・競技会の開催について指導しました。

組織構成の現況は、次の通りとなっています。

名 称	組 織 数	中央委員会の名称
ブロック協議会	14 (14)	中央賞罰委員会
ブロック審査員協議会	13 (13)	中央犬籍・繁殖委員会
ブロック訓練士協議会	14 (14)	遺伝性疾患専門小委員会
クラブ連合会	65 (65)	中央犬種標準委員会
クラブ地区連合会	1 (1)	中央展覧会委員会
ジャーマンシェパードドッグクラブ・ トレーナーズクラブ連合会	1 (1)	中央審査員選考委員会
ブロックスチュワード委員会	14 (14)	中央ハンドリング委員会 ジュニアハンドラー小委員会
ブロックトリマー委員会	14 (14)	中央トリミング委員会
ブロックハンドラー委員会	14 (14)	中央トリマー養成機関委員会
犬種部会	4 (5)	中央訓練委員会 ユーティリティー・ドッグ小委員会 フライボール小委員会 オビディエンス小委員会 ドッグダンス小委員会
クラブ	872 (874)	中央アジリティ委員会
		中央災害救助犬委員会

注：( )内は前年度末の数値。

(1) クラブ活動・機能の強化

2023年度は、12クラブが新しく設立され、クラブ会員数の減少等に起因するクラブの統廃合(合併7、解散7)の結果、年度末のクラブ数は前年度末に比べ2クラブ減少し872クラブとなりました。

なお、年度末の会員定数以上の正会員クラブ数は756クラブと前年度比で3クラブ減少となっており、会員定数未滿のクラブに対し、事務局、ブロック担当理事及び管轄組織より指導をするとともに、第290回理事会において新型コロナウイルス感染症拡大によるクラブ会員定数に関する特例措置の解除を行いました。

2008年度に創設した準クラブ制度については、これまで35クラブが設立されており、全てが正クラブへ移行しております。

(2) クラブへの新入会並びに名義変更の促進

インターネットを活用し、ホームページでの入会案内及び名義変更のPRを行い、新入会・名義変更の促進に努めました。

さらに、新入会・名義変更促進のため、リーフレットを作成し、クラブ、登録畜犬業者等へ配布しました。

(3) クラブ連合会、ジャーマンシェパードドッグクラブ・トレーナーズクラブ連合会活動の指導強化  
連合会活動の活性化と指導強化を図るため、諸会議の開催、その議事録の提出期限の徹底及び義務付展覧会・義務付競技会の開催を指導しました。

(4) 各種ブロック協議会活動の指導強化

連合会と同様に、活性化と指導強化を図るため、諸会議の開催及びその議事録の提出期限の徹底を指導しました。

また、FCI国際ショナルドッグショー、ブロック訓練競技会の開催を指導しました。

(5) 犬種部会活動の指導強化

連合会と同様に、活性化と指導強化を図るため、諸会議の開催、その議事録の提出期限の徹底及び部会会報の発行、部会展覧会の開催を指導しました。

また、2023年度は、4部会(①ダックスフンド部会 ②プードル部会 ③シェットランドシープドッグ部会 ④チワワ部会)が活動しております。

なお、アメリカンコッカースパニエル部会については、第289回理事会の議決により解散としました。

(6) 各種ブロック委員会活動の指導強化

連合会と同様に、活性化と指導強化を図るため、常任委員会の開催及びその議事録の提出期限の徹底を指導しました。

(7) 会費自動引落の推進及びシステムの修正

2011年4月より開始した会費の支払いが自動引落しにより可能となるサービスについては、2024年3月末現在、31,873名のクラブ会員にご利用いただいております。

また、会費自動引落システムの構築及び修正を行うとともに、サービス推進のため、会報・ホームページへの公示、引落しをご利用いただいていないクラブ会員に対し、会報への案内書の同封、新規クラブ入会者に対し、クラブ会員証を送付の際に案内書の同封、トリマー養成機関在校生に対し、案内書の送付、引落申込会員に対し、引落月のご案内の送付を実施しました。

クラブ分類表

<クラブ数・正会員クラブ> (総数に対する構成比率)

2024年3月31日現在

	クラブ数		正会員クラブ	
	2023年	2024年	2023年	2024年
全犬種クラブ	599 (68.5%)	597 (68.5%)	598	596
犬種群クラブ	33 (3.8%)	32 (3.7%)	33	32
単犬種クラブ	166 (19.0%)	162 (18.6%)	166	162
トレーナーズクラブ	46 (5.3%)	46 (5.3%)	46	46
アジリティークラブ	28 (3.2%)	33 (3.8%)	28	33
フィールド・トライアル クラブ	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0	0
ドッグダンスクラブ	2 (0.2%)	2 (0.2%)	2	2
総 数	874 (100%)	872 (100%)	873 (99.9%)	871 (99.9%)

<凍結クラブ数>

	会員数定数未満 (50名未満)		会員数定数未満 (40名未満)		連合会年会費未納	
	2023年	2024年	2023年	2024年	2023年	2024年
全犬種クラブ	1	1			0	0
犬種群クラブ			0	0	0	0
単犬種クラブ			0	0	0	0
トレーナーズクラブ			0	0	0	0
アジリティークラブ			0	0	0	0
フィールド・ トライアルクラブ			0	0	0	0
ドッグダンスクラブ			0	0	0	0
総 数	1	1	0	0	0	0

(8) クラブ会員数

年度末クラブ会員数は対前年度比99.3%の80,199名であり、前年度末に比べ558名の減少となりました。また、1クラブ当たり平均在籍クラブ会員数は89名(前年度90名)となっています。

クラブ会員数の推移

年 度	クラブ会員数	クラブ会員数のうち 翌年同月に残る数	比率
2019年度末	75,594名	56,470名	74.7%
2020年度末	76,585名	59,253名	77.4%
2021年度末	79,308名	62,305名	78.6%
2022年度末	80,757名	64,040名	79.3%
2023年度末	80,199名	63,945名	79.7%

注：名誉会員は除く

会費自動引落サービス並びに会費前納制度利用により、翌年同月に残るクラブ会員数は63,945名(前年度64,040名)で、前年度末に比べ95名が減少し、クラブ会員総数に対する比率は79.7%(前年度79.3%)となりました。

(※自動引落しサービスは2011年1月より受付開始)

継続会費の自動引落サービス利用者数

年 度	利用者数
2019年度末	27,860名
2020年度末	29,155名
2021年度末	30,455名
2022年度末	31,232名
2023年度末	31,873名

## クラブ会員数・クラブ数 対前年比較表

(単位：人、クラブ数)

連 合 会 名	2023年3月末		2024年3月末		増 減	
	クラブ会員数	クラブ数	クラブ会員数	クラブ数	クラブ会員数	クラブ数
北 海 道 東	722	10	651	9	-71	-1
北 海 道 西	1,642	15	1,637	15	-5	0
北 海 道 南	805	12	821	12	16	0
小 計	3,169	37	3,109	36	-60	-1
青 森 県	383	5	369	5	-14	0
岩 手 県	389	5	408	6	19	1
宮 城 県	1,561	16	1,523	16	-38	0
秋 田 県	383	6	359	6	-24	0
山 形 県	328	6	326	6	-2	0
福 島 県	728	10	691	10	-37	0
小 計	3,772	48	3,676	49	-96	1
栃 木 県	1,734	17	1,699	17	-35	0
群 馬 県	2,154	30	2,244	30	90	0
茨 城 県	1,991	24	2,044	24	53	0
小 計	5,879	71	5,987	71	108	0
千 葉 東	2,169	26	2,193	26	24	0
千 葉 西	1,139	13	1,128	13	-11	0
千 葉 北	1,631	15	1,711	16	80	1
小 計	4,939	54	5,032	55	93	1
埼 玉 東	1,139	15	1,114	13	-25	-2
埼 玉 西	1,770	16	1,655	18	-115	2
埼 玉 北	1,293	15	1,286	15	-7	0
小 計	4,202	46	4,055	46	-147	0
東 京 東	2,384	18	2,559	20	175	2
東 京 西	1,225	12	1,247	12	22	0
東 京 南	2,392	24	2,360	24	-32	0
東 京 北	1,876	20	1,612	19	-264	-1
東 京 都 下	1,739	24	1,601	23	-138	-1
小 計	9,616	98	9,379	98	-237	0

## クラブ会員数・クラブ数 対前年比較表

(単位：人、クラブ数)

連 合 会 名	2023年3月末		2024年3月末		増 減	
	クラブ会員数	クラブ数	クラブ会員数	クラブ数	クラブ会員数	クラブ数
横 浜	1,231	14	1,117	12	-114	-2
川 崎	693	14	687	12	-6	-2
神 奈 川 北	1,477	12	1,407	12	-70	0
神 奈 川 湘 南	684	13	730	14	46	1
神 奈 川 南	2,230	13	2,197	13	-33	0
小 計	6,315	66	6,138	63	-177	-3
山 梨 県	485	6	519	6	34	0
長 野 県	703	10	719	10	16	0
新 潟 県	643	9	648	9	5	0
富 山 県	172	2	160	2	-12	0
石 川 県	801	7	866	7	65	0
小 計	2,804	34	2,912	34	108	0
静 岡 東	1,128	18	1,055	18	-73	0
静 岡 西	1,090	13	1,106	13	16	0
愛 知 県	2,795	28	2,772	29	-23	1
岐 阜 県	1,073	14	1,085	14	12	0
三 重 県	770	12	736	12	-34	0
小 計	6,856	85	6,754	86	-102	1
福 井 県	300	6	290	6	-10	0
和 歌 山 県	308	5	313	5	5	0
奈 良 県	509	7	483	7	-26	0
滋 賀 県	588	10	581	10	-7	0
京 都 府	1,481	19	1,463	19	-18	0
兵 庫 県	3,093	32	3,169	32	76	0
小 計	6,279	79	6,299	79	20	0
大 阪 東	1,291	17	1,325	18	34	1
大 阪 西	3,974	16	4,236	16	262	0
大 阪 南	1,434	15	996	14	-438	-1
大 阪 北	845	12	870	13	25	1
小 計	7,544	60	7,427	61	-117	1

## クラブ会員数・クラブ数 対前年比較表

(単位：人、クラブ数)

連 合 会 名	2023年3月末		2024年3月末		増 減	
	クラブ会員数	クラブ数	クラブ会員数	クラブ数	クラブ会員数	クラブ数
岡 山 県	2,362	20	2,399	20	37	0
広 島 県	1,757	17	1,631	13	-126	-4
山 口 県	693	11	723	12	30	1
島 根 県	267	5	262	5	-5	0
鳥 取 県	421	5	398	5	-23	0
小 計	5,500	58	5,413	55	-87	-3
香 川 県	1,299	14	1,322	13	23	-1
愛 媛 県	824	10	834	10	10	0
徳 島 県	885	12	814	13	-71	1
高 知 県	322	6	354	7	32	1
小 計	3,330	42	3,324	43	-6	1
福 岡 県	3,272	25	3,365	26	93	1
北 九 州	1,015	17	995	17	-20	0
佐 賀 県	424	6	428	6	4	0
長 崎 県	454	7	458	7	4	0
熊 本 県	1,216	11	1,172	11	-44	0
大 分 県	548	9	566	9	18	0
宮 崎 県	711	10	706	10	-5	0
鹿 児 島 県	317	5	304	5	-13	0
沖 縄 県	587	6	544	5	-43	-1
小 計	8,544	96	8,538	96	-6	0
トリマー養成機関	2,008		2,156		148	
小 計	2,008		2,156		148	
総 合 計	80,757	874	80,199	872	-558	-2



全国ブロック協議会別クラブ会員数・クラブ平均会員数推移表

2023年3月末						2024年3月末				
ブロック名	連合会数	クラブ数	有効クラブ 会員数(人)	平均 (人)	順位	ブロック名	連合会数	クラブ数	有効クラブ 会員数(人)	平均 (人)
東京	5	98	9,616	98	1	東京	5	98	9,379	96
九州	9	96	8,544	89	2	九州	9	96	8,538	89
大阪	4	60	7,544	126	3	大阪	4	61	7,427	122
中部	5	85	6,856	81	4	中部	5	86	6,754	79
神奈川	5	66	6,315	96	5	近畿	6	79	6,299	80
近畿	6	79	6,279	79	6	神奈川	5	63	6,138	97
北関東	3	71	5,879	83	7	北関東	3	71	5,987	84
中国	5	58	5,500	95	8	中国	5	55	5,413	98
千葉	3	54	4,939	91	9	千葉	3	55	5,032	91
埼玉	3	46	4,202	91	10	埼玉	3	46	4,055	88
東北	6	48	3,772	79	11	東北	6	49	3,676	75
四国	4	42	3,330	79	12	四国	4	43	3,324	77
北海道	3	37	3,169	86	13	北海道	3	36	3,109	86
北陸甲信越	5	34	2,804	82	14	北陸甲信越	5	34	2,912	86
合計	66	874	78,749	90		合計	66	872	78,043	89

本部関係	—	—	2,008	—	—	本部関係	—	—	2,156	—
------	---	---	-------	---	---	------	---	---	-------	---

## 2. 犬籍登録に関する事項

2023年度の犬籍登録頭数は、前年度比100.4%の309,641頭(133犬種)で、前年度末に比べ1,235頭の増加となりました。

犬籍登録頭数推移

年 度	犬籍登録頭数
2019年度	297,227頭
2020年度	313,120頭
2021年度	319,479頭
2022年度	308,406頭
2023年度	309,641頭

犬種別の登録順位は、1位から9位までが前年度と同順位であり、15年連続の1位はプードルで登録数は79,085頭(4,317頭減)となっております。以下、2位はチワワで48,563頭(495頭増)、3位はダックスフンドで28,866頭(28頭減)、4位はポメラニアンで21,156頭(1,743頭増)、5位はミニチュア・シュナウザーで14,415頭(1,475頭増)となっております。

### (1) 犬籍登録管理の徹底と血統証明書の発行

#### ① マイクロチップ登録を推進

マイクロチップによる個体識別登録強化を推進しました。

#### ② CD-ROM及び製本方式によるスタッドブックの刊行

2022年の全登録犬を収録したCD-ROM版と、犬種を指定して購入できる製本方式のスタッドブックを刊行しました。

#### ③ 次の登録犬に対してDNA登録等を義務付けております。

・チャンピオン登録犬 ・外産登録犬 ・交配したすべての種牡 ・血統証明書再発行(本会の原簿上に交配記録がある種牡) ・親犬訂正する犬 ・生後2年を超える一胎子についての父母犬及び子犬全頭 ・国外凍結・低温精液による人工授精の母犬及び子犬全頭 ・国内凍結・低温精液による人工授精の父母犬及び子犬全頭

また、前記以外の任意の登録も実施しました。

2023年度のDNA登録は9,813頭であり、本会のDNA登録のデータベースは総数260,501頭となりました。

#### ④ 凍結・低温精液による人工授精と、持込腹(国外で交配した母犬を輸入し国内で出産する場合)の一胎子登録制度を推進しました。

### (2) 優良犬作出に対する繁殖奨励の実施

① 優良犬繁殖奨励のため、2002年から2023年までの22年間のデータを基に、第18回JKCブリーディング・アワードを実施し、ブリーディング・アワード殿堂入り0名、アウトスタンディング・ブリーダー(優良犬作出ブリーダー)36名、アウトスタンディング・サイヤー(優良犬作出種牡)12頭、アウトスタンディング・ダム(優良犬作出台牝)8頭を表彰しました。

② 股関節形成不全症(HD)、および肘関節異形成症(ED)を減少させるため、所有者の希望に基づき特定非営利活動法人日本動物遺伝病ネットワーク(JAHD)評価結果の血統証明書記載を推進しました。

③ 犬の健全性に関する活動を一層充実・強化する新たな取組として、遺伝性疾患の低減化対策等を計画的に推進するために、遺伝性疾患専門小委員会を設置しました。

犬種別犬籍登録頭数2022年度対2023年度（4月～3月）

順位		犬種	2022年	2023年	増減数	対比率(%)
2022年	2023年					
1	1	プードル(スタンダード 2,462・ミニチュア 301・トイ 76,087)	83,402	79,085	- 4,317	94.8
2	2	チワワ	48,068	48,563	+ 495	101.0
3	3	ダックスフンド(スタンダード 103・ミニチュア 21,857・カニンヘン 6,906)	28,894	28,866	- 28	99.9
4	4	ポメラニアン	19,413	21,156	+ 1,743	109.0
5	5	ミニチュア・シュナウザー	12,940	14,415	+ 1,475	111.4
6	6	フレンチ・ブルドッグ	11,822	11,054	- 768	93.5
7	7	マルチーズ	9,004	9,993	+ 989	111.0
8	8	ヨークシャー・テリア	8,656	8,246	- 410	95.3
9	9	シー・ズー	7,735	8,201	+ 466	106.0
11	10	ゴールデン・レトリバー	6,864	7,775	+ 911	113.3
14	11	ビション・フリーゼ	4,355	5,999	+ 1,644	137.7
10	12	柴	7,286	5,773	- 1,513	79.2
12	13	パグ	5,152	5,282	+ 130	102.5
15	14	ウェルシュ・コーギー・ペンブローク	4,348	4,434	+ 86	102.0
13	15	ラブラドル・レトリバー	4,699	4,138	- 561	88.1
16	16	パピヨン	3,966	3,798	- 168	95.8
18	17	ボーダー・コリー	3,296	3,497	+ 201	106.1
17	18	ジャック・ラッセル・テリア	3,307	3,369	+ 62	101.9
19	19	ペキニーズ	3,091	3,315	+ 224	107.2
22	20	キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル	2,692	2,987	+ 295	111.0
20	21	イタリアン・グレーハウンド	2,853	2,981	+ 128	104.5
21	22	ミニチュア・ピンシャー	2,748	2,749	+ 1	100.0
23	23	シェットランド・シープドッグ	2,456	2,650	+ 194	107.9
25	24	ボストン・テリア	2,292	2,568	+ 276	112.0
27	25	シベリアン・ハスキー	1,783	2,126	+ 343	119.2
24	26	ビーグル	2,354	2,096	- 258	89.0
26	27	アメリカン・コッカー・スパニエル	1,912	2,045	+ 133	107.0
30	28	日本スピッツ	1,129	1,287	+ 158	114.0
28	29	バーニーズ・マウンテン・ドッグ	1,284	1,167	- 117	90.9
29	30	ブルドッグ	1,163	1,112	- 51	95.6
33	31	ウィペット	399	446	+ 47	111.8
31	32	ウエスト・ハイランド・ホワイト・テリア	513	409	- 104	79.7
44	33	サモエド	237	397	+ 160	167.5
36	34	グレート・ピレニーズ	318	394	+ 76	123.9
35	35	ドーベルマン	379	389	+ 10	102.6
32	36	ジャーマン・シェパード・ドッグ	413	373	- 40	90.3
34	37	イングリッシュ・コッカー・スパニエル	389	335	- 54	86.1
42	38	フラットコーテッド・レトリバー	267	324	+ 57	121.3
38	39	秋田	310	317	+ 7	102.3
36	40	ボルゾイ	318	287	- 31	90.3
40	41	狆	290	275	- 15	94.8
39	42	ダルメシアン	307	235	- 72	76.5
41	43	ワイマラナー	287	184	- 103	64.1
45	44	ロットワイラー	234	172	- 62	73.5
46	45	ノーフォーク・テリア	198	170	- 28	85.9
52	46	ボロニーズ	161	166	+ 5	103.1
52	47	チャウ・チャウ	161	165	+ 4	102.5
47	48	ニューファンドランド	184	158	- 26	85.9
67	49	オールド・イングリッシュ・シープドッグ	84	152	+ 68	181.0
49	50	ミニチュア・ブル・テリア	171	151	- 20	88.3
55	51	チャイニーズ・クレストッド・ドッグ	151	149	- 2	98.7

順位		犬種	2022年	2023年	増減数	対比率(%)
2022年	2023年					
51	52	ホワイト・スイス・シェパード・ドッグ	165	146	- 19	88.5
61	53	コーイケルホンディエ	113	144	+ 31	127.4
60	54	オーストラリアン・シェパード	123	140	+ 17	113.8
63	54	グレート・デーン	106	140	+ 34	132.1
48	56	セント・バーナード	177	137	- 40	77.4
54	57	ワイアー・フォックス・テリア	160	130	- 30	81.3
58	57	ブリュッセル・グリフォン	127	130	+ 3	102.4
43	59	ラフ・コリー	240	127	- 113	52.9
62	60	トイ・マンチエスター・テリア	112	120	+ 8	107.1
57	61	スコティッシュ・テリア	145	107	- 38	73.8
56	62	アイリッシュ・セター	148	102	- 46	68.9
71	62	ハバニーズ	65	102	+ 37	156.9
74	64	アフガン・ハウンド	54	94	+ 40	174.1
64	65	サルキー	100	92	- 8	92.0
59	66	バセット・ハウンド	124	81	- 43	65.3
69	67	甲斐	81	79	- 2	97.5
66	68	ケアン・テリア	85	72	- 13	84.7
50	69	ボクサー	166	67	- 99	40.4
83	70	エアデール・テリア	37	66	+ 29	178.4
76	71	スキッパーキ	50	62	+ 12	124.0
72	72	ウェルシュ・テリア	64	60	- 4	93.8
73	72	プチ・ブラバンソン	61	60	- 1	98.4
75	74	ノーリッチ・テリア	53	57	+ 4	107.5
86	74	ウェルシュ・コーギー・カーディガン	32	57	+ 25	178.1
70	76	アラスカン・マラミュート	74	49	- 25	66.2
77	77	ベルジアン・グリフォン	49	46	- 3	93.9
77	78	レオンベルガー	49	43	- 6	87.8
79	79	四国	46	42	- 4	91.3
65	80	日本テリア	89	40	- 49	44.9
67	81	イングリッシュ・スプリングー・スパニエル	84	36	- 48	42.9
84	82	ベルジアン・シェパード・ドッグ・マリノア	36	34	- 2	94.4
120	82	イングリッシュ・セター	4	34	+ 30	850.0
82	84	バセンジー	38	33	- 5	86.8
90	84	シャー・ペイ	23	33	+ 10	143.5
106	86	ジャイアント・シュナウザー	12	31	+ 19	258.3
93	87	ブリタニー・スパニエル	19	29	+ 10	152.6
85	88	ジャーマン・ピンシャー	35	28	- 7	80.0
87	89	ポーチューギーズ・ウォーター・ドッグ	28	25	- 3	89.3
99	90	ミニチュア・アメリカン・シェパード	16	22	+ 6	137.5
80	91	スタッフオードシャー・ブル・テリア	43	21	- 22	48.8
91	91	北海道	22	21	- 1	95.5
97	91	チベタン・スパニエル	17	21	+ 4	123.5
88	94	ビアデッド・コリー	27	19	- 8	70.4
104	95	オーストラリアン・キャトルドッグ	13	18	+ 5	138.5
131	96	プチ・バセット・グリフォン・バンデーン	1	17	+ 16	1,700.0
131	97	ブリアード	1	16	+ 15	1,600.0
102	98	キースホンド	14	15	+ 1	107.1
120	98	ロマーニャ・ウォーター・ドッグ	4	15	+ 11	375.0
100	100	ベルジアン・シェパード・ドッグ・ターピュレン	15	13	- 2	86.7
113	100	シーリハム・テリア	7	13	+ 6	185.7
131	100	アメリカン・アキタ	1	13	+ 12	1,300.0
81	103	レークランド・テリア	40	12	- 28	30.0

順位	犬種	2022年	2023年	増減数	対比率(%)	
2022年	2023年					
89	104	イタリアン・コルソ・ドッグ	26	11	- 15	42.3
97	105	ボルドー・マスティフ	17	10	- 7	58.8
125	106	オーストラリアン・ケルピー	3	9	+ 6	300.0
-	106	チェコスロバキアン・ウルフドッグ	0	9	+ 9	-
-	106	マスティフ	0	9	+ 9	-
93	109	ラサ・アプソ	19	8	- 11	42.1
108	109	チベタン・テリア	8	8	± 0	100.0
-	109	アイリッシュ・ソフトコーテッド・ウィートン・テリア	0	8	+ 8	-
93	112	ベドリントン・テリア	19	7	- 12	36.8
96	112	ボーダー・テリア	18	7	- 11	38.9
100	112	ケリー・ブルー・テリア	15	7	- 8	46.7
-	112	ファラオ・ハウンド	0	7	+ 7	-
120	116	アイリッシュ・テリア	4	6	+ 2	150.0
120	116	ナポリタン・マスティフ	4	6	+ 2	150.0
125	116	セントラル・アジア・シェパード・ドッグ	3	6	+ 3	200.0
108	119	グレート・スイス・マウンテン・ドッグ	8	5	- 3	62.5
128	119	ダンディ・ディモント・テリア	2	5	+ 3	250.0
102	121	ノヴァ・スコシア・ダック・トーリング・レトリバー	14	4	- 10	28.6
104	121	ベルジアン・シェパード・ドッグ・グローネンダール	13	4	- 9	30.8
131	121	コットン・ド・デュレール	1	4	+ 3	400.0
92	124	アイリッシュ・ウルフハウンド	20	3	- 17	15.0
108	124	ポリッシュ・ローランド・シープドッグ	8	3	- 5	37.5
116	126	ブービエ・デ・フランダース	5	2	- 3	40.0
107	127	プレサ・カナリオ	9	1	- 8	11.1
116	127	ショートヘアード・ハンガリアン・ビズラ	5	1	- 4	20.0
128	127	アーフェンピンシャー	2	1	- 1	50.0
-	127	イングリッシュ・ポインター	0	1	+ 1	-
-	127	コモンドール	0	1	+ 1	-
-	127	ピレニアン・シープドッグ	0	1	+ 1	-
-	127	ローデシアン・リッジバック	0	1	+ 1	-
108	-	ジャーマン・ハンティング・テリア	8	0	- 8	0.0
108	-	ピレニアン・マスティフ	8	0	- 8	0.0
113	-	スムース・フォックス・テリア	7	0	- 7	0.0
113	-	ドゴ・アルヘンティノ	7	0	- 7	0.0
116	-	プラシユスキー・クリサジーク	5	0	- 5	0.0
116	-	紀州	5	0	- 5	0.0
120	-	パーソン・ラッセル・テリア	4	0	- 4	0.0
125	-	ブル・テリア	3	0	- 3	0.0
128	-	ジャーマン・ショートヘアード・ポインター	2	0	- 2	0.0
131	-	クロアチアン・シープドッグ	1	0	- 1	0.0
131	-	ダッチ・シェパード・ドッグ	1	0	- 1	0.0
131	-	ディアハウンド	1	0	- 1	0.0
131	-	フィールド・スパニエル	1	0	- 1	0.0

年 度	2022年度 (構成比)	2023年度 (構成比)	増減数	対比率	
登 録 頭 数	大型犬	25,193 (8.2%)	26,177 (8.5%)	984	103.9%
	中型犬	2,336 (0.8%)	2,340 (0.8%)	4	100.2%
	小型犬	280,877 (91.0%)	281,124 (90.7%)	247	100.1%
	合計	308,406	309,641	1,235	100.4%
犬 種 数	138	133	-5	96.4%	

### 3. 展覧会に関する事項

#### (1) 各種展覧会の開催

2023年度の展覧会開催数は、2022年度と比較すると5開催多い、193開催となりました。

本部主催による展覧会として、2023年3月31日(金)に「ロイヤルカナン・カップ2023」として単犬種合同特別本部展を933頭の申込みをもって開催しました。

また、4月1日(土)・2日(日)の両日、同じく東京ビッグサイトにおいて、本部主催として「J K C サクラ・アニュアル・ショー2023」を1,746頭の出陳申込みをもって開催しました。

2022年の本部展以降、全ての展覧会をFCI展覧会規程に準じたシステムで開催しておりますが、東京オリンピックの開催、新型コロナウイルス感染症拡大影響もあり2019年以来国外審査員を招請することが叶いませんでしたが、2023年開催時には6名の国外審査員を招請することが出来ました。

本部主催の展覧会として、この他に「アジアジャーマンシェパードドッグショー」を10月29日(日)・静岡県富士市富士川緑地公園にて、ノルウェーよりスベン・エジル・ヴァグル審査員を招請して、申込頭数64頭をもって開催いたしました。

(2) 夏季開催時の展覧会出陳者、並びに出陳犬の健康上の安全を考慮し、7月・8月の開催は原則、北海道と東北ブロックに限定することとしました。それ以外の開催であっても高温時での開催には十分注意させ、場合によっては本部指導による開催見合わせを指導することといたしました。

(3) 展覧会賞品の本部寄贈内容の見直しを行い、全犬種展・犬種群展の主催者負担の軽減を図り、2024年4月以降開催分から実施することとしました。

#### (4) ロイヤルカナンアワードの実施推進

「ロイヤルカナンアワード」として、通算29回目となったアワード表彰については、132犬種・241頭(牡122犬種・123頭/牝116犬種・118頭)となりました。次の表は、過去5開催分の犬種と受賞頭数の推移を表したものととなります。

アワード受賞犬種・受賞頭数一覧

	牡		牝		合 計	
	犬種数	頭数	犬種数	頭数	犬種数	頭数
2018年	102犬種	104頭	96犬種	97頭	105犬種	201頭
2019年	102犬種	102頭	97犬種	99頭	106犬種	201頭
2021年	98犬種	99頭	91犬種	93頭	102犬種	192頭
2022年	111犬種	111頭	104犬種	104頭	122犬種	215頭
2023年	122犬種	123頭	116犬種	118頭	132犬種	241頭

※2020年は、新型コロナウイルス感染症拡大により展覧会開催数が大幅に減少したため、2021年分と合算し、表彰することとした。

(5) スチュワードの資格者の養成

2022年開催の本部展と同様に、展覧会新システムの周知を図るため、「ロイヤルカナン・カップ2023」、並びに「JKCサクラ・アニュアル・ショー2023」にも全国ブロックスチュワード委員会に対して資格者の派遣を要請し、職務を行っていただきました。

(6) スチュワードの養成と資格者管理

スチュワードの資格者数について、チーフスチュワードへの昇格者が1名、スチュワードへの新規登録者が12名いました。2023年夏に行った資格更新では、更新対象者84名(チーフスチュワード資格者57名、スチュワード資格者27名)のうち、76名(チーフスチュワード資格者55名、スチュワード資格者21名)が更新手続きを行いました。2024年3月末現在、チーフスチュワード146名、スチュワード資格者72名、合計218名となりました。次の表は各ブロック別・資格別スチュワード登録者数の一覧です。

ブロック別・資格別スチュワード登録者数 (単位：人)

ブロック	チーフスチュワード	スチュワード	合計
北海道	6	3	9
東北	15	0	15
北関東	8	5	13
千葉	8	2	10
埼玉	8	7	15
東京	11	6	17
神奈川	14	7	21
北陸甲信越	12	9	21
中部	13	3	16
近畿	17	7	24
大阪	7	10	17
中国	9	1	10
四国	7	7	14
九州	11	5	16
合計	146 (148)	72 (67)	218 (215)

※( )は前年度数

## 展覧会種類別開催数及び出陳頭数の推移

次の表は過去5年間の展覧会種類別開催数及び出陳頭数の推移であります。

展覧会名称		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
JKCサクラ・アニュアル・ショー(本部展) (旧:FCIジャパンインターナショナルドッグショー)	開催数	-	-	1回	1回	1回
	出陳総頭数			1,156頭	1,424頭	1,746頭
特別展 (ロイヤルカナン・カップ(旧:単犬種合同特別本部展) /単犬種合同特別展)	開催数	1回	1回	1回	2回	2回
	出陳総頭数	752頭	740頭	790頭	1,441頭	1,556頭
アジアジャーマンシェパード ドッグショー	開催数	1回	-	-	1回	1回
	出陳総頭数	69頭			59頭	64頭
FCIインターナショナル ドッグショー	開催数	13回	3回	12回	14回	14回
	出陳総頭数	8,323頭	2,446頭	9,287頭	9,940頭	10,706頭
	平均頭数	640頭	815頭	774頭	710頭	765頭
クラブ連合会展	開催数	24回	7回	29回	27回	26回
	出陳総頭数	7,925頭	3,433頭	11,261頭	10,342頭	10,723頭
	平均頭数	330頭	490頭	388頭	383頭	412頭
ジャーマンシェパードドッグクラブ ・トレーナーズクラブ連合会展	開催数	-	1回	1回	1回	2回
	出陳総頭数		61頭	42頭	31頭	83頭
	平均頭数		61頭	42頭	31頭	42頭
犬種部会展	開催数	11回	2回	6回	8回	9回
	出陳総頭数	1,104頭	179頭	592頭	564頭	748頭
	平均頭数	100頭	90頭	99頭	71頭	83頭
全犬種クラブ展	開催数	102回	34回	89回	90回	98回
	出陳総頭数	23,990頭	10,706頭	26,196頭	23,134頭	24,718頭
	平均頭数	235頭	315頭	294頭	257頭	252頭
犬種群クラブ展	開催数	21回	4回	25回	24回	29回
	出陳総頭数	2,497頭	523頭	3,035頭	2,090頭	2,663頭
	平均頭数	119頭	131頭	121頭	87頭	92頭
単犬種クラブ展	開催数	23回	4回	8回	20回	11回
	出陳総頭数	1,259頭	218頭	479頭	946頭	583頭
	平均頭数	55頭	55頭	60頭	47頭	53頭
合 計	開催数	196回	56回	172回	188回	193回
	出陳総頭数	45,919頭	18,306頭	52,838頭	49,971頭	53,590頭



#### 4. 技術部門・競技会に関する事項

##### (1) 審査員、訓練士、トリマー、ハンドラー、アニマル衛生士資格者の管理

資格更新者の更新率の向上を図り、また各公認資格及び競技会審査員資格の新規・昇格試験を次の通り実施しました。

###### ①資格取得試験

審査員／単犬種 2023年9月6日(水)：東京都で実施。

(受験者26名・受験犬種数123犬種・合格犬種数58犬種)

2024年2月28日(水)：大阪府で実施。

(受験者18名・受験犬種数77犬種・合格犬種数56犬種)

／犬種群 2023年9月6日(水)：東京都で実施。

(筆記試験)(受験者19名・受験犬種群数31犬種群・合格犬種群数13犬種群)

2024年2月28日(水)：大阪府で実施。

(筆記試験)(受験者9名・受験犬種群数19犬種群・合格犬種群数6犬種群)

(実技試験)クラブ展・クラブ連合会展会場で実施。

(受験者17名・受験犬種群数24犬種群・合格犬種群数24犬種群)

／全犬種 2023年9月6日(水)：東京都で実施。

(受験者5名・合格者数3名)

訓練士 6ブロック／5養成機関で実施。

(ブロック：45名合格、養成機関：137名合格)

トリマー 13ブロック／8指定機関・10研修機関・21協力機関で実施。(ブロック：126名合格、指定機関：792名合格、研修機関：399名合格、協力機関：568名合格)

ハンドラー 13ブロック／8指定機関・8研修機関で実施。(ブロック：138名合格、指定機関：348名合格、研修機関：260名合格)

トリマー教士 2023年11月25日(土)：神奈川県で実施。(受験者5名・合格者0名)

ハンドラー教士 2023年11月9日(木)：受験申し込みが無かったため中止。

アニマル衛生士 8養成機関で実施(受験者32名・合格者31名)

###### ②資格更新件数：10,281件(対象件数：11,598件) 更新率：88.6%

(審査員：173件、訓練士：1,274件、トリマー：6,139件、ハンドラー：2,545件、アニマル衛生士：150件)

###### ③②による資格更新件数10,281件のうち、2991件が口座振替による更新。

(審査員：25件、訓練士：386件、トリマー：1,741件、ハンドラー：802件、アニマル衛生士：37件)

##### (2) 審査員・訓練士・トリマー・ハンドラー資格者の教育研修の強化

①審査員義務研修会を、「犬種標準の改正点について」をテーマとし、13会場において延べ217名の受講により実施しました。

②訓練士義務研修会を、8会場においては各ブロックで講師及びテーマを設定し、2022年度に新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催を中止した6ブロックにおいては、「訓練競技会について」をテーマとし、延べ1,117名の受講により実施しました。

③トリマー義務研修会を、「基礎栄養学・体重管理・皮膚被毛について」をテーマとし、14会場において延べ2,616名の受講により実施しました。

④ハンドラー義務研修会を、各ブロックで講師及びテーマを設定し、14会場において、延べ677名の受講により実施しました。

⑤自主研修会の開催指導を行い、次の通り6会場で自主研修会が実施されました。

ブロック協議会・1開催／ブロック審査員協議会・1開催／ブロックトリマー委員会・1開催／ブロックハンドラー委員会・2開催／犬種部会・1開催

⑥トリミング競技大会・ハンドリングコンペティション理事長受賞者を対象とした海外研修を、2023

年5月6日(土)～5月12日(金)アメリカ・ニューヨークで参加者11名により実施しました。

(3) 各種審査員研修会及び試験の実施

- ①審査実務のための特別研修会を、「審査の手法」をテーマに、大阪府において2名の受講により実施しました。
- ②新規訓練競技会審査員研修会を、「訓練競技会審査の原則と技術」をテーマに、埼玉県・広島県において、4名の受講により実施しました。
- ③ドッグダンス審査員資格取得講習会を、2023年7月3日(月)山梨県において10名の受講により実施しました。
- ④トリマー試験委員トリミング研修会を、「トリマー試験・競技会に関する規程改正について(スイニング・プランキング犬種、プードル)」をテーマに、2023年8月17日(木)東京都において37名の受講により実施しました。

(4) トリマー養成機関の教育向上の指導強化

- ①各養成機関に教育体制及びカリキュラムの指導を実施しました。
- ②協力機関に資格取得試験に対する指導を実施しました。
- ③養成機関教職者トリミング研修会を、「トリマー試験・競技会に関する規程改正について(スイニング・プランキング犬種、プードル)」をテーマに、2023年8月17日(木)東京都において27名の受講により実施しました。

(5) 訓練競技会の開催

第104回2023春季訓練競技大会を2023年4月22日(土)・23日(日)の両日、埼玉県・比企郡吉見総合運動公園において出陳頭数561頭で、また第105回2023秋季訓練競技大会を2023年11月4日(土)・5日(日)の両日、埼玉県・比企郡吉見総合運動公園において出陳頭数549頭で開催しました。

F C I 東日本インターナショナルトライアルを、2024年1月28日(日)・29日(月)の両日、千葉ブロック訓練士協議会の担当により263頭の出陳頭数で開催しました。

F C I 西日本インターナショナルトライアルを、2023年12月24日(日)中部ブロック訓練士協議会の担当により230頭の出陳頭数で開催しました。

この他、ブロック訓練競技会を12回、S T 連合会訓練競技会を2回、クラブ訓練競技会を11回開催しました。

訓練技術の向上を図るためチャンピオン制度を推進し、トレーニングチャンピオン126頭、グランドトレーニングチャンピオン53頭、オビディエンスチャンピオン7頭、グランドオビディエンスチャンピオン1頭の登録がありました。

オビディエンス試験・競技の参加人員底辺拡大のため、全国の訓練競技会でクラス採用の推進を図り、東西日本ブロック訓練士協議会主催で2回、ブロック訓練士協議会主催で6回、S T 連合会主催で1回、クラブ主催で1回採用しました。

訓練競技会に併催して開催しているフライボール競技会については、第104回2023春季訓練競技大会に併催した第36回2023フライボール競技大会は、出陳頭数アトラクション個人18頭・個人競技31頭・ダブルス競技4チーム・チーム競技11チームで、また、第105回2023秋季訓練競技大会に併催した第37回2023フライボール競技大会は、出陳頭数アトラクション個人18頭・個人競技18頭・ダブルス競技4チーム・チーム競技7チームで開催しました。

この他、東日本・西日本ブロックフライボール競技大会を2回、ブロックフライボール競技会を6回、S T 連合会フライボール競技会を1回開催しました。

競技会参加層の拡大を図るため、チャンピオン制度を推進し、フライボールチャンピオン6頭の登録がありました。

(6) I G P 競技会の開催

第28回2023 F C I - I G P 競技大会は、2023年6月24日(土)・25日(日)長野県・霧ヶ峰において出陳頭数51頭で開催しました。

第28回2023 F C I - I G P 競技大会の結果に基づき、F C I - I G P ワールドチャンピオンシップ

2023(2023年9月5日(火)～10日(日):スロベニア共和国・ノヴァ ゴリツァ)に5ペアを派遣しました。成績はチーム21位、個人最高が43位でした。

訓練競技会・フライボール競技会種類別開催数の推移 (単位:回)

名 称	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
訓練競技大会(本部主催)※1	1	1	2	2	2
F C I国際ナショナルトライアル※2	1	0	3	2	2
ブロック訓練競技会	9	3	10	9	12
ジャーマンシェパードドッグクラブ・ トレーナーズクラブ連合会訓練競技会	0	1	1	1	2
クラブ訓練競技会	15	9	10	13	11
フライボール競技大会(本部主催)	1	1	2	2	2
フライボール競技大会 (東日本・西日本ブロック訓練士協議会主催)	0	0	3	2	2
ブロックフライボール競技会	6	2	8	5	6
ジャーマンシェパードドッグクラブ・ トレーナーズクラブ連合会フライボール競技会	0	1	1	1	1
クラブフライボール競技会	1	0	0	1	0
F C I - I G P 競技大会(本部主催)※3	1	0	1	1	1
合 計	35	18	41	39	41

※1…2019年秋季訓練競技大会、2020年春季訓練競技大会は開催中止。

※2…東日本及び西日本F C I国際ナショナルトライアル。2019年度のF C I東日本国際ナショナルトライアル、2020年度のF C I西日本国際ナショナルトライアルは開催中止。

※3…2020F C I - I G P 競技大会は開催中止。

#### (7) アジリティー競技会の開催

第36回2023F C I国際ナショナルアジリティー競技大会を、2023年6月3日(土)・4日(日)に埼玉県・比企郡吉見総合運動公園において、個人競技への出陳691頭・チーム競技への出陳73チーム219頭で開催しました。

J K Cアジリティー・ジャパンカップ2023兼F C Iアジリティーワールドチャンピオンシップ2023派遣選考会を、2023年6月17日(土)・18日(日)に京都府・ミズノスポーツプラザ京都伏見において出陳頭数83頭で開催しました。

J K Cアジリティー・ジャパンカップ2023兼F C Iアジリティーワールドチャンピオンシップ2023派遣選考会の結果に基づき、F C Iアジリティーワールドチャンピオンシップ2023(2023年10月4日(水)～8日(日):チェコ共和国・リベツ)にスモール・ミディアム・ラージの各カテゴリー3ペア合計12ペアを派遣しました。成績は、個人最高がミディアムクラスJ P競技4位、チーム最高がラージ

クラスAG競技3位でした。

FCI東日本インターナショナルアジリティー競技大会を2024年1月26日(金)・27日(土)に千葉ブロック訓練士協議会の担当により538頭の出陳頭数で開催しました。

FCI西日本インターナショナルアジリティー競技大会を2023年12月23日(土)に中部ブロック訓練士協議会の担当により527頭の出陳頭数で開催しました。

この他、ブロックアジリティー競技会を14回、ST連合会アジリティー競技会を2回、クラブアジリティー競技会を28回開催しました。

競技会の充実により、アジリティー競技関連のチャンピオン登録は、アジリティーチャンピオン142頭、グランドアジリティーチャンピオン24頭の登録がありました。

アジリティー競技会種類別開催数の推移

(単位：回)

名 称	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
FCIアジリティー競技大会(本部主催)	1	0	0	1	1
アジリティー・ジャパンカップ/アジリティーJKCカップ/アジリティー大阪カップ	1	1	1	2	2
FCI東・西日本アジリティー競技大会	1	0	3	2	2
ブロックアジリティー競技会	9	4	13	11	14
ジャーマンシェパードドッグクラブ・トレーナーズクラブ連合会アジリティー競技会	0	1	1	1	2
クラブアジリティー競技会	29	14	23	26	28
合 計	41	20	41	43	49

(8) ドッグダンス競技会の開催

第1回2023ドッグダンス競技大会を、2023年7月1日(土)・2日(日)に山梨県・ドッグリゾートWooofにおいて、出陳頭数92頭で開催しました。

第1回2023ドッグダンス競技大会の結果に基づき、FCIドッグダンスワールドチャンピオンシップ2023(2023年5月18日(木)～21日(日)：デンマーク・ヘアニング)に4ペアを派遣しました。成績はチーム10位、個人最高が15位でした。

(9) トリミング競技会の開催

第43回トリミング競技大会予選を兼ねたブロック競技会、並びに養成機関競技会を14ブロック及び18養成機関でそれぞれ開催しました。

FCIグルーミングワールドチャンピオンシップ2023(2023年4月20日(木)：台湾・高雄)に5ペアを派遣しました。成績はチーム優勝でした。

トリミング競技会別開催数の推移

(単位：回)

名 称	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
トリミング競技大会(本部主催)	0	1	1	2	0
ブロックトリミング競技会	14	14	14	14	14
養成機関トリミング競技会	16	20	15	16	18
合 計	30	35	30	32	32

#### (10) ハンドリング競技会の開催

第40回ハンドリングコンペティション予選を兼ねた各ブロック競技会を14ブロックで開催しました。

ハンドリング競技会別開催数の推移

(単位：回)

名 称	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
ハンドリング競技大会(本部主催)	1	0	1	2	0
ブロックハンドリング競技会	14	11	13	14	14
合 計	15	11	14	16	14

#### (11) ジュニアハンドラーの育成及び教育研修の強化

第31回ジュニアハンドリングコンペティション予選を兼ねたブロックジュニアハンドリングコンペティションを13回開催しました。

地区研修会を2023年7月15日(土)に東会場(埼玉県)6名、西会場(大阪府)5名の参加により実施しました。また、サマーセミナーを2023年7月30日(日)～8月1日(火)に山梨県において、20名の参加により実施しました。

イギリスのクラフトショーに併催された、ジュニアハンドラー世界大会2024(バーミンガム・2024年3月8日(金))に代表者を派遣しました。

ジュニアハンドラーガイドを各FCIインターナショナルドッグショー会場で配付し、登録者の増加推進を図りました。また、ジュニアハンドラー活動初参加者へジュニアハンドラーTシャツを配布し、参加意識の向上を図りました。

ジュニアハンドラー登録者は、新規登録者及び登録更新者あわせて105名(前年度100名)となっています。

#### (12) オーナーハンドラー(初心者)のハンドリング技術の普及

一般クラブ会員向けにハンドリング技術の普及を図るため、クラブ連合会展会場において実施しているオーナーハンドラー講習会は9会場で開催され延べ208名の受講、また、オーナーハンドリングコンペティションは17会場で開催され延べ312名の参加がありました。

#### (13) 公認訓練所の充実

訓練実績を確認するため、訓練所所員の名簿提出及び登録を行い、実績不足の訓練所に対しては指導を行いました。

公認訓練所の認定にあたっては、設備・規模・衛生状態等についての現地調査を厳正に行い、新規訓練所として第2種訓練所に1訓練所を認定しました。また、第1種訓練所2訓練所を取消し、2023年度末公認訓練所数は、第1種訓練所が83訓練所、第2種訓練所が14訓練所となり、合計97訓練所となりました。

## 審査員資格登録者一覧表

2024年3月31日現在 (単位：人)

資格 ブロック	単犬種	犬種群	全犬種	小計	特別保持			保 持			合計
					単	群	全	単	群	全	
北海道	8(0)	5(1)	10(3)	23	1	0	0	0	0	0	24
東 北	5(0)	12(1)	6(1)	23	2	0	2	0	1	0	28
北関東	21(1)	10(1)	10(6)	41	1	2	2	0	1	0	47
千 葉	20(0)	11(0)	6(3)	37	5	0	0	0	0	0	42
埼 玉	12(0)	12(1)	9(2)	33	2	0	0	1	0	0	36
東 京	20(0)	16(5)	23(13)	59	2	3	6	2	0	0	72
神奈川	24(1)	5(2)	15(5)	44	2	0	5	0	0	0	51
北 陸 甲信越	6(0)	10(1)	6(2)	22	2	1	2	0	0	1	28
中 部	22(0)	10(1)	16(6)	48	3	0	1	2	0	0	54
近 畿	4(0)	16(2)	5(1)	25	5	1	3	0	0	1	35
大 阪	11(0)	11(5)	11(6)	33	5	1	1	0	2	0	42
中 国 四 国	18(0)	4(2)	11(6)	33	0	2	0	0	1	0	36
九 州	23(0)	8(1)	18(9)	49	0	1	0	0	0	0	50
合 計	194(2) <196>	130(23) <132>	146(63) <151>	470 <479>	63 <69>			12 <12>			545 <560>

注1 単→単犬種・群→犬種群・全→全犬種

2 < >は前年度数

3 ( )は2023年度に審査を行った審査員実数88名、延べ人数404名

### 年度別審査員資格者推移表

(単位：人)

年 度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
資格者数	563	541	580	560	545

## 訓練士資格登録者一覧表

2024年3月31日現在 (単位：人)

資格 ブロック	訓練準士補		訓練士補		訓練練士		訓練教士		訓練範士		師範	計	区分合計	
	正常	保持	正常	保持	正常	保持	正常	保持	正常	保持			正常	保持
北海道	0	0	0	2	39	12	8	1	4	0	0	66	51	15
東北	4	6	5	5	50	27	14	1	3	1	4	120	80	40
北関東	2	0	12	68	65	12	11	4	6	0	2	182	98	84
千葉	0	1	65	265	50	27	8	3	4	0	2	425	129	296
埼玉	4	0	25	285	106	41	15	3	14	2	5	500	169	331
東京	2	0	35	261	90	36	22	3	9	1	3	462	161	301
神奈川	1	0	53	58	79	26	18	3	19	3	4	264	174	90
北陸 甲信越	0	0	1	22	56	23	13	1	6	0	2	124	78	46
中部	0	1	27	79	77	28	21	3	18	0	0	254	143	111
近畿	5	0	5	41	100	48	24	3	22	1	1	250	157	93
大阪	1	0	7	52	61	36	15	2	7	1	0	182	91	91
中国	1	1	0	11	37	33	11	1	7	1	6	109	62	47
四国	0	0	1	22	29	4	10	1	6	1	0	74	46	28
九州	2	0	13	63	84	16	20	2	16	1	2	219	137	82
計	22	9	249	1,234	923	369	210	31	141	12	31	3,231	1,576	1,655
合計	31 <31>		1,483 <1,504>		1,292 <1,294>		241 <249>		153 <149>		31 <35>	3,231 <3,262>		

注1 < >は前年度数

2 新規及び昇格登録者数は182名

### 年度別訓練士資格者推移表

(単位：人)

年 度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
資格者数	3,212	3,194	3,216	3,262	3,231

## トリマー資格登録者一覧表

2024年3月31日現在 (単位：人)

資格 ブロック	C級		B級		A級		教士	師範	計	区分合計	
	正常	保持	正常	保持	正常	保持				正常	保持
北海道	25	93	48	399	26	78	9	0	678	108	570
東北	276	166	129	104	29	17	3	0	724	437	287
北関東	129	609	71	358	48	45	11	0	1,271	259	1,012
千葉	173	319	81	676	43	96	4	1	1,393	302	1,091
埼玉	70	238	98	799	68	102	6	0	1,381	242	1,139
東京	71	232	92	860	82	181	12	3	1,533	260	1,273
神奈川	53	126	55	302	37	54	6	1	634	152	482
北陸 甲信越	101	278	68	164	32	23	3	0	669	204	465
中部	60	166	74	372	30	70	5	0	777	169	608
近畿	132	281	89	395	46	89	2	0	1,034	269	765
大阪	48	162	70	474	76	89	6	0	925	200	725
中国	395	438	93	198	58	47	5	0	1,234	551	683
四国	111	225	44	153	31	36	4	0	604	190	414
九州	321	436	113	619	67	159	14	2	1,731	517	1,214
計	1,965	3,769	1,125	5,873	673	1,086	90	7	14,588	3,860	10,728
トリマー 養成機関	857		653		116		7	1	1,634		
合計	6,591 <6,346>		7,651 <7,738>		1,875 <1,851>		97 <98>	8 <9>	16,222 <16,042>		

注1 < >は前年度数

2 新規及び昇格登録者数は2,453名

### 年度別トリマー資格者推移表

(単位：人)

年 度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
資格者数	15,490	15,619	15,827	16,042	16,222



## ハンドラー資格登録者一覧表

2024年3月31日現在 (単位：人)

資格 ブロック	C級		B級		A級		特別 A級	教士	師範	計	区分合計	
	正常	保持	正常	保持	正常	保持					正常	保持
北海道	15	241	9	14	6	5	0	3	1	294	34	260
東北	27	192	7	16	4	5	0	4	0	255	42	213
北関東	48	281	11	6	10	1	0	5	0	362	74	288
千葉	55	459	17	11	13	2	0	8	0	565	93	472
埼玉	42	545	7	13	4	5	0	7	0	623	60	563
東京	60	616	7	14	10	6	1	3	0	717	81	636
神奈川	51	197	19	10	19	3	0	6	1	306	96	210
北陸 甲信越	15	98	9	5	12	2	0	1	0	142	37	105
中部	35	269	16	13	13	6	0	5	0	357	69	288
近畿	78	315	11	11	6	5	0	4	0	430	99	331
大阪	101	338	8	4	12	5	0	4	0	472	125	347
中国	44	181	14	12	7	2	0	4	0	264	69	195
四国	39	193	1	7	5	0	0	2	0	247	47	200
九州	57	395	18	19	7	9	1	11	0	517	94	423
計	667	4,320	154	155	128	56	2	67	2	5,551	1,020	4,531
トリマー 養成機関	1,136		8		0		1	0	0	1,145		
合計	6,123 <6,008>		317 <313>		184 <180>		3 <4>	67 <67>	2 <3>	6,696 <6,575>		

注1 < >は前年度数

2 新規及び昇格登録者数は746名

### 年度別ハンドラー資格者推移表

(単位：人)

年 度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
資格者数	6,566	6,501	6,599	6,575	6,696

## 5. 愛犬の飼育環境整備に関する事項

### (1) 動物愛護精神の普及と高揚

核家族化や高齢化が進み、犬を飼育することの重要性が高く評価されている現代社会において、犬の絵や写真、俳句を通じて犬への愛情や理解を深めていただくことを目的に実施している各種コンクール(犬の絵コンクール、愛犬とのふれあい写真コンテスト等)を、前年度に引き続き開催した他、動物愛護週間における“動物愛護ふれあいフェスティバル”及び「2023動物感謝デーin JAPAN“The World Veterinary Day”」(共催・2023年11月23日)への参加を行い、動物愛護精神の普及と高揚に努めました。

また、会報にて長寿犬(満15歳以上)の誌上表彰(332頭)を行いました。

### (2) 災害救援活動の推進

災害対応基金制度による災害対応基金の総額は2,031,313円です。

2023年度の支出はありませんでしたが、2024年1月1日に発生した令和6年能登半島地震の募金総額は968,855円となっております。

### (3) 愛犬飼育管理士資格制度の推進

「動物の愛護及び管理に関する法律」の理念に基づき、地域において動物愛護思想の普及啓蒙、畜犬に係る公衆衛生の向上及び畜犬の適正な指導奨励に関する事業の地域における指導的役割を担う人材を育成するため、「JKC愛犬飼育管理士」資格取得のための講習会・試験を6カ所の会場で実施し、1,614名の登録がありました。また、この他、公認トリマー養成機関生徒227名の資格登録がありました。

愛犬飼育管理士講習会・試験の開催と登録者数の推移

年度	開催数と開催ブロック名		登録者
2019年度	9開催	東京2回・大阪・東北・千葉・近畿・埼玉・中部・九州	1,090名
2020年度	9開催	大阪・神奈川・東北・近畿・中部・埼玉・九州・中国・東京	2,875名
2021年度	11開催	北海道・東北・大阪・北陸甲信越・四国・近畿・埼玉・中部・千葉・東京・九州	3,393名
2022年度	12開催	九州3回・大阪・東北・中国・近畿・北海道・中部・埼玉・東京・神奈川	3,594名
2023年度	6開催	大阪・埼玉・近畿・東京・中部・九州	1,614名
合計	第1回(2007年)からの延べ開催数と登録者数 …… 160開催・25,446名		

### (4) 各種コンクールの実施

「第47回夏休み犬の絵コンクール」、「第32回愛犬とのふれあい写真コンテスト」、「令和5年愛犬とのふれあいの俳句」へは、いずれも多くのお応募がありました。

また、各種コンクールの優秀作品を、会報及びホームページに掲載しました。なお、前年に引き続き「2023年犬の絵コンクール優秀作品集」、「2023第32回愛犬とのふれあい写真コンテスト」カラーパンフレットを刊行し、世界のケネルクラブ及び協力者、関係者に配付し、好評を得ました。

夏休み犬の絵コンクール／愛犬とのふれあい写真コンテスト  
／「愛犬とのふれあいの俳句」俳壇応募数一覧

年 度	夏休み犬の絵コンクール							愛犬との ふれあい写真 コンテスト (点)	愛犬との ふれあいの 俳句 (句)
	応募数 (点)	団体数 (団体)	団体内訳						
			①	②	③	④	⑤		
2019年度	7,510	280	250	21	1	3	4	469	1,136
2020年度	6,775	265	224	25	3	4	9	473	1,355
2021年度	10,018	292	253	30	0	1	8	654	2,344
2022年度	11,410	311	258	38	0	6	9	515	1,310
2023年度	10,983	291	245	31	1	3	11	874	1,292

注：団体内訳の丸数字は順に①小学校 ②絵画教室 ③幼稚園 ④中学校 ⑤その他です。

(5) 社会福祉への貢献

全国の4クラブ(延べ5回)が実施した動物愛護及び社会福祉活動に対し一定額の助成を実施しました。

6. 災害対策に関する事項

(1) 災害救助犬の育成強化

災害救助犬の全国的な配備を目指し、ブロック訓練士協議会主催により全国6ブロックで災害救助犬認定試験を実施し、新たに34頭を認定しました。この結果、2023年度末現在の認定犬頭数は、死亡等による認定返上を差し引き、186頭となり、その内10歳以上の犬等の特別災害救助犬の頭数は50頭となりました。指導手については217名となりました。

(2) 災害救助犬育成訓練所の拡充指導

公認災害救助犬育成訓練所21訓練所の他に、災害救助犬を所有する訓練所が7訓練所となりました。

(3) 災害救助犬の出動体制の整備

①2024年1月1日(月)に発生した能登半島地震に際し、1月2日(火)から5日(金)の間、石川県輪島市に本会災害救助犬チーム(隊長1名、指導手7名、災害救助犬10頭)が出動し、被災者捜索活動を実施しました。

②防災週間等に全国28カ所で行われた防災訓練等に災害救助犬延べ52頭、指導手延べ63名が参加しました。

③新たに登録された救助犬指導手10名に救助服の貸与を行いました。

④現在、出動に関する協定締結自治体は22自治体(新規自治体は神奈川県、岩手県、埼玉県越谷市)となっています。

⑤災害が発生した時に出勤する災害救助犬出動部隊の創設準備を行いました。

(4) 災害救助犬育成募金の活用

①2023年度の災害救助犬育成募金の総額は1,106,337円となりました。

②2023年度の災害救助犬支援企業は、アニコム損害保険株式会社の1社(協賛金総額550,000円)となりました。

③2023年度の災害救助犬育成寄付金付き自動販売機の設置台数は116台となりました。(寄付金総額645,642円)

④2023年度の災害対策募金・協賛金総額は1,656,337円となり、災害救助犬の事業支出(総額24,265,183円)の一部として災害救助犬育成助成費、指導手傷害保険、東西訓練施設維持管理費等に活用しております。

次の表は災害対策費の項目別支出一覧です。

2023年度災害対策費支出一覧

(単位：円)

項 目	金 額
災害救助犬育成助成費(64頭)	1,152,000
防災訓練・イベント等(28カ所、延べ52頭・63名)	872,000
指導手傷害保険(229名)	533,360
東西訓練施設維持管理費	10,435,493
災害救助犬認定試験(6回)	3,672,722
災害救助犬競技大会	3,530,746
指導手制服貸与(10名)	597,850
災害救助犬世界大会	3,137,012
中央災害救助犬委員会	334,000
合 計	24,265,183

#### (5) 災害救助犬訓練施設の整備

①東日本災害救助犬訓練施設及び西日本災害救助犬訓練施設の修繕及び管理を行いました。

②新西日本災害救助犬訓練施設の移転のための工事を着工しました。

#### (6) 災害救助犬指導手の連携強化

災害救助犬等、並びに指導手の技術向上及び指導手の連携強化を図るため、東日本災害救助犬訓練施設においては災害救助犬等延べ765頭、指導手延べ623名の合同捜索訓練を、また、西日本災害救助犬訓練施設においては災害救助犬等延べ219頭、指導手延べ146名による合同捜索訓練を、義務練習及び自主練習として実施しました。

#### (7) 特別災害救助犬の認定

年齢が10歳以上となった認定犬及び能力が低下した認定犬17頭を新たに特別災害救助犬として認定しました。

#### (8) F C I 災害救助犬委員会との連携強化及び技術交流

2023年6月4日(日)ルーマニア・クラヨバにてF C I 災害救助犬委員会会議が開催され、災害救助犬に関する意見の交換と技術の交流を図りました。

#### (9) 災害救助犬競技大会の開催

①2023年6月1日(木)～4日(日)ルーマニア・クラヨバで開催された2023 F C I 災害救助犬チームワールドチャンピオンシップにチームリーダー1名・指導手3名・災害救助犬3頭を派遣しました。成績は瓦礫捜索部門5チーム中5位(瓦礫捜索作業5チーム中5位、服従熟練作業5チーム中4位)でした。

②第25回2023災害救助犬競技大会を2023年9月13日(水)・14日(木)の2日間、東日本災害救助犬訓練施設・(独)家畜改良センター内野球グラウンドにおいて、出陳頭数30頭で開催しました。

### 7. 学術部門に関する事項

#### (1) 各種研修会・試験の充実

審査員有資格者及び新規受験者の知識向上のためのテキストを作成しました。また、各種資格試験(審査員・トリマー・ハンドラー)の試験問題を作成しました。

## (2) 学術資料の拡充

犬種標準の改正及び、新登録犬種の犬種標準の作成を行いました。また、各犬種に関する資料の収集及び整備を行いました。

## (3) 審査員技術の向上と育成

審査員の技術向上のため、審査実務のための研修会を2023年7月25日(火)に実施した他、ブロック審査員協議会主催による義務・自主研修会用の資料の作成をしました。

審査員育成のため、2023年9月6日(水)に東京都、及び2024年2月28日(水)に大阪府で審査員試験を実施し、2023年9月6日(水)に東京都で全犬種審査員試験を実施しました。

また、各地の展覧会にて犬種群審査員の実技試験を実施しています。

## (4) 各種教本の修正及び販売

犬種標準の改正、並びに新登録犬種の増加に伴い、全犬種標準書の改正を行いました。また、アメリカン・コッカー・スパニエルの新技法、用語解説の追加により、最新グルーミングマニュアルの改正を行いました。

全犬種標準書、最新ドッググルーミングマニュアル等の教本販売を行いました。

## 8. 国際的連携に関する事項

### (1) 国際畜犬連盟(F C I)との連携強化

F C I加盟国として、2023年8月にスイスで開催されたF C I総会に出席しました。また、2023年9月にスロベニアと2024年3月にクロアチアで開催されたF C Iユーティリティードッグ委員会、2023年10月にチェコと2024年2月にベルギーで開催されたF C Iアジリティー委員会、2023年6月にルーマニアで開催されたF C I災害救助犬委員会、2024年2月にスペインで開催されたF C Iグルーミング委員会にそれぞれ出席しました。

なお、2023年6月にデンマークで開催されたF C Iドッグダンス委員会、2023年11月にチェコで開催されたF C Iオビディエンス委員会、2024年2月にスロバキアで開催されたF C I災害救助犬委員会は欠席しました。

また、2023年4月に台湾で開催されたF C Iアジア・アフリカ・オセアニア・セクション総会にも出席しました。

2023年度末のF C I加盟国数は89カ国(うち正会員78カ国、準会員11カ国)、F C I契約パートナー国数は8カ国となっています。

### (2) アジア・グルーミング・フェデレーション(A G F)の連携強化

A G F会長国として、2023年8月にA G F総会及び役員会を台湾で開催し、A G Fグルーミング競技会及び試験の開催に関する事項、A G F役員の変更に関する事項、今後のA G Fの活動に関する事項等が審議されました。

また、A G F各加盟国におけるグルーミング競技会活動の強化を図るため、加盟3カ国で開催されたグルーミング競技会・試験への本会審査員12名の国外審査を許可しました。

2023年度末のA G F加盟国数は4カ国となっています。

### (3) 世界秋田クラブ畜犬連盟(WU A C)の連携強化

2023年7月にWU A C執行委員会オンライン会議が開催され、2022年会計報告に関する事項、日本犬種オンラインセミナー開催に関する事項等が審議されました。

また、2023年12月に秋田に関するWU A Cオンラインセミナーが開催され、世界11カ国から80余名の秋田関係者が参加しました。

2023年度末のWU A C加盟国数は10カ国となっています。

### (4) 国外ケネルクラブとの技術交流の強化促進

諸外国との技術交流の強化を図るため、国外ケネルクラブとの連携を密にするとともに、国内展覧会・各種競技会への国外審査員の招請及び国外展覧会・各種競技会への本会審査員の派遣を行いました。その内容は、106の国内展覧会・各種競技会に世界35カ国から延べ124名の審査員が招請されました。

また、国外については、世界33カ国へ延べ61名の国外審査を許可しました。

なお、AGF加盟国への派遣については(2)に記載しました。

#### (5) 日本原産犬種の国際的振興

日本原産犬種のスタンダード及び特徴を充分理解してもらうため、日本原産犬種の各種資料の収集に努めました。

#### (6) 国際的な情報収集と文献交換

世界各国のケネルクラブから会報誌が定期的を送付されてきており、本会からは会報「JKCガゼット」、「犬の絵コンクール優秀作品集」等を送付しています。その他、犬界の雑誌の収集等、世界の状況把握に努めました。

### 9. 広報部門に関する事項

#### (1) 会報「JKCガゼット」の内容充実

犬のお手入れのための「高齢犬を皮膚トラブルから守るスキンケア」や、犬との遊び「愛犬との”絆”を深めて楽しく遊ぼう!」、防虫対策のための「愛犬の防虫対策」、「JKC愛犬検定2023」、災害対策のための「最新の防災知識」、病気の知識を高めるための「愛犬のがん最前線」、ドッグショーの楽しみ方を紹介した「ドッグショーと犬種維持の歴史を辿る」等の愛犬家に役立つ最新情報を特集で掲載しました。

また、本部主催の展覧会や災害救助犬競技大会、トリミング競技大会、訓練競技大会等の報告記事や各種展覧会・競技会の日程、JKC公示、会員から送られた愛犬の写真とエピソードなど、会員に必要な情報の掲載をいたしました。

#### (2) ホームページの内容充実

ホームページに掲載する情報や、各種展覧会・競技会の日程、最新イベントに関する情報等の随時更新をしていきました。そして、公認資格者向けのトリミング動画配信及び新規動画作成、展覧会システムの改正に関する動画配信を継続しました。

さらに、JKCマスコットキャラクター「ジャック」を利用した「ジャックブログ」をホームページ上に開設し、会員のみならず一般愛犬家も楽しめるような、ホームページ作りに努めました。

また、ホームページの利便性を向上させるために再構築の検討をしました。

その他、会員特典として、通販サイトと連動して「クーポン」を取得できるようにしました。

#### (3) 展覧会・競技会事業等のPR活動

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、展覧会・競技会などへ参加する際の注意点について、ホームページや会報等で、昨年引き続き呼びかけをいたしました。

また、本部が主催する展覧会や訓練競技大会、アジリティー競技大会、フライボール競技大会、トリミング競技大会等の見どころを会報で紹介しPRに努めました。

さらに、JKCマスコットキャラクター「ジャック」のティッシュやハンドタオル、ボールペン、ふせん等のグッズを、本部主催の展覧会、訓練競技大会、アジリティー競技大会会場等で配布・販売をいたしました。

### 10. 図書印刷物の刊行に関する事項

#### (1) 定款規程集の発行

定款規程細則全書2023年度版を5月に刊行しました。

#### (2) 犬の絵コンクール優秀作品集の発行

2023年犬の絵コンクール優秀作品集を2023年12月に刊行しました。

### 11. 電算システムの開発に関する事項

#### (1) 業務の変化等を踏まえた新システムへの変更

中長期的視点に立った業務の変化等を踏まえ、課を跨いだプロジェクトチームを編成し新たなシス

テム構築の検討と設計を行いました。

## 12. 登録申請受付システムの開発に関する事項

### (1) インターネットを利用した申請受付システムの構築

本会ホームページからオンライン申請による愛犬飼育管理士講習会の受講・試験申込みシステムの構築及び、その運用を開始しました。また、各種競技会出陳受付の運用開始の準備を行いました。